

# 流山とりだより

流山野鳥同好会

No.152

2025年7月10日



●コウノトリ「ヤマト」と「ひなた」

お気に入りの電柱に先に止まったのは、♂の「ヤマト」。

♀の「ひなた」も止まりたいけど、「ヤマト」に威嚇されてしまいました。

※ヤマト♂ (J0155 2017年4月9日野田市生まれ 右足：黄黄 左足：黄黒)

ひなた♀ (J0424 2022年3月29日小山市生まれ 右足：青黄 左足：緑緑)

2025.06.15 野田市こうのとりの里

撮影：東原 聡

## 観察会から

● 3月30日（日）（第304回）延期 定例観察会 野々下水辺公園・古間木  
2025年3月30日

相馬利雄（写真：東原 聡）

本来なら3月16日（日）観察会は雨のため中止だったのですが、急きょ30日（日）に延期としました。この時期は冬鳥のカモたちの見納め、また渡ってきた夏鳥の初見が重なる微妙な観察を味わうことができます。正会員18名＋WEB会員12名＝30名の大所帯となりましたが、この人数に会員さんが慣れたのかWEB会員さんへの対応に不思議と余裕を感じました。

さて観察会はどうだったのかというと、野々下水辺公園の手前の草藪でウグイスが上手にさえずり、そして公園で見事にヤマモモが咲き誇り、鳥見＋花見をダブルで楽しむことができました。そうそう、夏鳥のツバメが電線に止まっていましたね。水路でのコガモ、草地のハクセキレイ、セグロセキレイも見落とすところでした。

野々下水辺公園の坂川では、コガモ、アオサギ、オオバン、カワセミも見ることができました。野々下・古間木（ふるまぎ）地区ではキジが「ケンケン」と鳴き、その先の鉄塔には2羽のノスリが止まっていました。スコープでみる雄姿に歓喜しました。

古間木の調整池では、北へ帰る前の最後マガモのオス1メス1。キンクロハジロとホシハジロが各数羽ずつ。コガモは2羽。本当に見納めのカモたちを見ることができました。常連の数羽のカルガモ、そしてカイツブリはもうすぐこの池を独り占めできるでしょう。

最後に総合運動公園の鳥合わせでは33種。解散前に4羽のノスリがクルクルと絡みながら汎翔したのには驚きました。タカたちも春の陽気を楽しんでいるようでした。鳥合わせではトビを入れ忘れちゃったので、最終計は34種としてください。

急きょ延期した観察会ですが、夏鳥＋冬鳥を見ることができ中止にしないで正解でした。みなさん、お疲れさまでした。

### <参加者の皆さんから>

● 意外と身近にたくさんの種類の鳥がいるんだなと知れました。「あそこに〇〇がいるよ」と教えて頂き、実際にかわいいキレイな色の鳥が見えた時、感動しました。参加させて頂きありがとうございました。（津山陽子さん・チラシを見て参加）。おもしろかったです。（津山けいちゃん）

● ・かわせみがきれいだった。1年まえとちがうみちをあるいたとこがよかった。

・たいちょうさん、ぼうえんきょうをかしてくれてありがとうございました。

・からふるなとりをみたりしてとてもとてもたのしかったです。

・みんないろいろはなしたりしてたのしかったです。

・おともだちがふえました。おともだちのだいたいのかずは、15人くらいです。

・次回参加しますか？ ぜったいさんかします。

（中ざわ せいじくん）

● 初めて参加いたしましたが、いつも車で通っている野々下水辺公園付近でカワセミやチョウゲンボウ、ノスリが普通に飛び交っていることにびっくりしました。ただ、それも経験豊富な貴会の皆様のおかげです。特に、あのチョウゲンボウとモズの発見は脅威ですね。なぜわかるのでしょうか？？？

貴会ホームページの報告を拝読いたしました。これまたすばらしい写真が掲載されており、感激しました。4月の観察会もぜひ参加いたしたく、日程を調整したいと思います。本当にありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

（植松正弘、和子さんより）



ノスリ



サシバ



ツバメ



カワセミ



アオサギ



コガモ



キジ

#### ◆観察した鳥

カイツブリ、アオサギ、トビ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、コガモ、マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、コジュケイ、キジ、オオバン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス  
(鳥合わせで、トビが抜けていましたので追加しました)

以上 34 種

#### ◆参加者

今泉 毅、今泉好美、大渡 修、太田桐門史子、川上和雄、菊池和子、菅野文夫、鈴木淑子、相馬利雄、相馬由佳、近澤 宏、塚本清美、服部雅子、東原 聡、中澤誠至、宮原 誠、森田方美、吉田令子  
(WEB 会員 桑原宣義、井上ハルヨ、朝日真紀子、鈴木瑞枝、嶋根美佐江、千葉留美、植松正浩、植松和子、鈴木弘史+お子さん、津山陽子+お子さん)  
以上 会員 18 + 12 = 30 人



## 観察会から

● 4月20日（日）（第305回）定例観察会

おおたかの森駅「水鳥の池」＋おおたかの森へ

2025年4月20日

和田 椋甫（写真：東原 聡）

水鳥の池では、コガモやハシビロガモといった冬のカモたちをはじめ、ホオジロ、アオサギといった多くの野鳥が見られて、とてもにぎやかでした。

みんなすっかり夢中で、気づくと先頭があんなところまで進んでる…

でも、野鳥が見られなくてスムーズに終わってしまうよりは、断然良いですね。

おおたかの森では小鳥の声に癒されました。

ムクロジの小話もおもしろかったです。

森のことや、おおたかの話を真剣に聞いている光景も良い時間でした。

急きょ任命された望遠鏡任務にアワアワしながらも、ここだ！と合わせたダイサギを、皆さんが楽しんで見ていたのでやりがいがありました！

初めて参加する人にも楽しんでもらえて嬉しかったです。

最近、新緑の堂々たる成長ぶりに季節の移り変わりを感じる一方で、野鳥を探しづらく、ソロ探鳥では挫折しかけていました。しかし、仲間たちとの観察では、こんなところにいたのかコムドリ！ こんな違いがあるのかツバメとイワツバメ！と勉強になります。

鳥の話や雑談なんかもしながら歩いていると、また一段と野鳥観察が楽しく感じられるのです。探鳥会のあと、近所の池を観察しました。

もしやと思い、よく見てみるとイワツバメがいました。観察会で学んだことをさっそく活かせました！

### <参加者の皆さんから>

- 思っていた以上に楽しかったです。童心にかえるとはこのことですね。また来たいです。何でも教えてくださいありがとうございました。（江口朋子さん・チラシを見て参加）
- 身近に色々な種類の野鳥が見られて感動でした。これから鳥の声や気配を感じて生活できそうです！ 姿も見られたらうれしいです！（池田明子さん・知人／ホームページを見て参加）
- 身近な鳥を見つけれとても楽しめました。ありがとうございました。スコープ助かりました。（豊嶋ひかりさん・ホームページを見て参加）



キジ





ホオジロ



カワラヒワ



トビ



アオサギ



バン



ダイサギ

#### ◆観察した鳥

カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、トビ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、キジ、バン、オオバン、コチドリ、キジバト、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上 28 種

#### ◆参加者

朝日真紀子、井上ハルヨ、伊東 孝、今泉好美、遠藤悦子、太田桐門史子、川上和雄、菊池和子、栗原三八子、菅野文夫、相馬利雄、近澤 宏、服部雅子、東原 聡、中澤誠至、増田久美子、森田洋一、吉田令子、和田椋甫  
(WEB 会員 桑原宣義、植松正浩、植松和子、江口朋子、池田明子、豊嶋ひかり)

以上 会員 19 + 6 = 25 人



ハシビロガモ



コガモ



アオサギ  
何と今日のアオサギさん、抱卵中だったようです。  
卵がみえますね。水鳥の池は人が入れない安全地帯。  
さて、どうなりましたでしょうか。



楽しい観察会でした

# 会員限定 市外観察会から

## 渡良瀬遊水地周辺の観察会

2025年5月11日

菅野文夫（写真：東原 聡、宮原 誠、今泉 毅、川上和雄）

2025年5月11日（日）、晴れ時々曇り、風速3m、気温20℃。  
前日までの雨が嘘のように、空気は澄みわたり、すがすがしい陽気となったこの日、総勢19名が新古河駅に集合し定例観察会を開催しました。今回は、天候による日程の前倒し、車を使っての移動型観察、そして初めての「渡良瀬&フクロウのヒナ目的」の観察など、当会としても“初めてづくし”の特別な一日となりました。

### ◆フクロウのヒナに大接近！

最初の観察地では、なんと！2羽のフクロウの巣立ちヒナと出会うことができました。彼らは高い木の枝にちょこんと佇み、その白くポワポワとした羽毛姿はまるでぬいぐるみのようでした。見上げ続ける首の痛みなど気にならないほど、皆さん夢中で観察していました。お尻を向けていたため、なかなか正面からは見られませんでした。その後ろ姿さえ愛らしく、時間を忘れてしまうほどです。また、キビタキらしき地鳴きも一瞬間こえ、早くも幸先のよいスタートに気分は上々です！



フクロウのヒナ

次の観察地もフクロウ狙い。YouTubeのライブ配信でも話題の神社です。地元の方の話では、我々が到着するちょっと前までフクロウの親鳥が観察できたとのこと。しかし、奥で行われていたチェーンソーによる下草刈りの音に驚いて、どこかへ移動してしまっただけです。残念ながら今回は姿を見ることができませんでしたが、ヒナがいる大木に圧倒されつつ、無事に巣立つことを祈ってきました。

### ◆水辺の楽校で、森の小鳥たちに耳をすます

続いて訪れたのは、水辺の楽校です。小さな森ながら、耳を澄ませば初夏の歌声があちらこちらから聞こえてきます。エゾムシクイのさえずりが響き、ガビチョウが騒々しくさえずります。一瞬だけですが、なんとサンコウチョウの声も…！（空耳かも？笑）



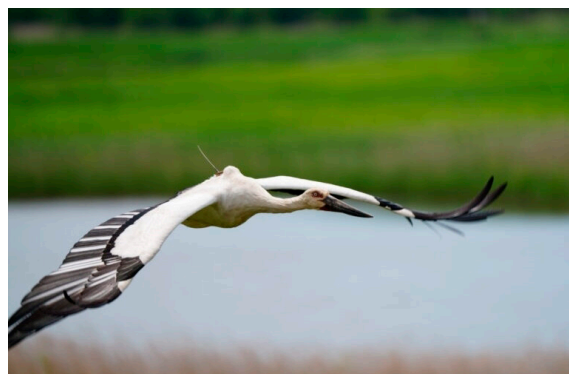
オオタカ

さらに、今泉さんが森の隙間から飛ぶ猛禽をキャッチ！写真判定の結果、オオタカであることが判明し、皆で歓声をあげました。道中では、塚本さんが見つけた自生のサクラランボの木に、たわわに実った果実が！その場で早めのおやつタイムとなり、「甘酸っぱくておいしい！」と大盛り上がりでした。

### ◆ 空を舞うコウノトリに歓声！



コウノトリ



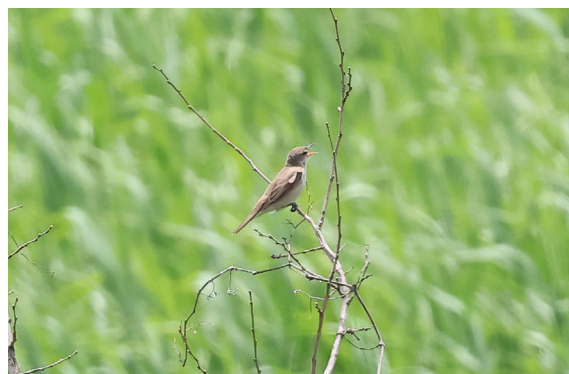
コウノトリ

次に向かったのは、桜づつみ沿いのコウノトリの巣塔です。親鳥1羽と、大きく育ったヒナ3羽を観察することができました。そして、観察を続ける中で、なんと親鳥が我々の頭上を滑空するシーンが！羽ばたき一つで空気の振動が感じられるような迫力に、一同大興奮です！  
その後は、雄大な渡良瀬遊水地を望む絶景の中で昼食タイム。多少風はありましたが、これ以上ないロケーションで、贅沢なひとときを過ごすことができました。お腹が空いて一時静かになっていた太田桐さんも、すっかり元気を取り戻した様子でした。

### ◆ 鷹見台へ！初夏の鳥たちと出会う



鷹見台から

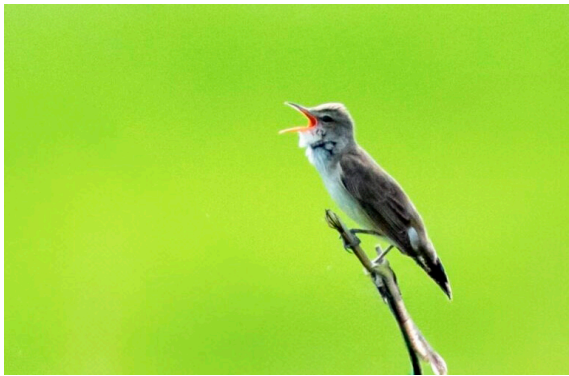


コヨシキリ

第2ラウンドは、第2調整池を抜け鷹見台へ。各車両1台に一人任命された連絡係により、LINEグループでの情報共有を行いながら、麦畑やヨシ原をゆっくり進みます。オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、キジ、ヒバリなど、多彩な鳥たちが次々と姿を現します。一瞬、コヨシキリと思われる鳥も確認されましたが、残念ながらカメラが荷台で撮影できず… と思いきや、さすが東原さん、しっかりと撮影されていました。以前は新川耕地でも見られましたが、最近はさっぱりでしたので、とても嬉しくなりました。

しかし、冬は枯れたヨシ原の上を猛禽が舞うこの場所も、初夏の今はヨシが青々と茂り、「行々子、行々子」と鳴くオオヨシキリたちの合唱が響き渡ります。季節の移ろいととも、鳥たちの顔ぶれがガラリと変わること、改めて感動を覚えました。  
鷹見台では、オオヨシキリやセッカの大合唱、遠くの沼のカワウ、ダイサギ、上空のトビなどを観察いたしました。

◆ オオセッカ、そして水没の湿地…



オオヨシキリ



オオセッカ

オオセッカのポイントでは、すでに何台かの車が到着しており、私たちも続いて観察を開始しました。特徴的な「ジョビジョビジョビ」の鳴き声が辺りに響き、わずかに姿を見せるもすぐに草の中へ。個人的には、簡単に観察できる野鳥より、こういうじらし系というか、なかなか観察できない鳥に妙に惹かれてしまいます。

そうこうしているうちに、予定時間を大幅にオーバーしていたため、後ろ髪をひかれつつも次のポイントへ向かいます。先週の下見では、アオアシシギが見られたので、シギチ類を期待します。が、な・な・なんと増水により、泥地や浮島がすっかり水没！残念ながら、シギチには出会えませんでした。ヨシガモが数羽観察できました。まだ北に渡っていないとは、随分のんびり屋さんたちですね。緑色したナポレオンハットのような頭が、太陽に反射してとてもきれいでした。

◆ 最後の舞台は、トラフズク親子



トラフズク♀



トラフズクのヒナ

観察会のラストを飾ったのは、トラフズクの親子です。現地には既に20名以上のギャラリーがおり、私たちも加わったことで50名近くの賑わいとなりました。高みからこちらを見下ろすヒナたちも、さぞかし驚いたことでしょう。

巣には1羽が立ち、2～3羽が中に。さらに1羽は既に巣立っており、合計4～5羽のヒナたちが確認できました。母鳥は巣の近くで警戒し、父鳥は少し離れた木の中でじっと見守っているようでした。首が痛くなるほど見上げ続けながらも、喰いつくように観察する鳥好きの皆さんと一緒に、この場所にいられる幸せを噛みしめた瞬間でもありました。

その地で鳥合わせをし、帰りは全員で車に乗車して無事に帰路につきました。

#### ◆観察した鳥

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、  
コウノトリ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、ヨシガモ、カルガモ、キジ、  
オオバン、キジバト、アオバズク、フクロウ、トラフズク、コゲラ、ヒバリ、  
ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオヨシキリ、  
コヨシキリ、エゾムシクイ、セッカ、オオセッカ、エナガ、シジュウカラ、  
メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、  
ハシブトガラス、ガビチョウ

以上 39 種

#### ◆参加者

朝日真紀子、井上ハルヨ、伊東 孝、今泉 毅、今泉好美、太田桐門史子、  
川上和雄、後藤邦宏、菅野文夫、鈴木瑞枝、相馬利雄、塚本清美、服部洋之、  
服部雅子、東原 聡、増田久美子、宮原 誠、吉田令子、和田椋甫

以上 会員 19 人

#### 感謝を込めて

最後に、車を提供して下さったドライバーの皆さま、安全第一での運転、本当にありがとうございました。おかげさまで、事故もなく無事に観察会を終えることができました。

また、連絡係の皆さま、ご自身の観察時間を削っての情報共有、本当に感謝いたします。5 台の移動がここまでスムーズにいったのは、皆さんのおかげです。

そして、参加された皆さま、“初めてづくし”を楽しんでいただけたようでなによりです。担当として、肩の荷が下りる思いです。今後の観察会も、仲間同士で、野鳥の世界や花・植物、そして…おしゃべり?も存分に楽しんでいきましょう。どうぞよろしく願いいたします！



全員集合

## 観察会から

●6月15日(日)(第306回)定例観察会 野田市こうのとりの里

2025年6月15日

和田 椋甫 (写真: 東原 聡、服部 洋之)



コウくん♂ 20才 (左足のみ黄色の足環)



コウちゃん♀ 30才 (左足のみ赤色の足環)

今回は、「野田市こうのとりの里」での観察会です！

観察舎の大きな窓越しには、コウノトリの「コウくん」と「コウちゃん」が堂々たる姿で立っていました。そして、施設スタッフの方がコウノトリの保護活動について解説してくださいました。

特に印象的だったのはコウノトリが国内で絶滅してしまったその原因です。

- ・狩猟による乱獲
- ・森林伐採による生息地の喪失
- ・農薬に含まれる化学物質の影響

いずれも人間の手によるものだと知って、胸が痛みました。

絶滅後は、コウノトリの里をはじめ、各地で行われている保護活動のおかげで、現在約450羽にまで個体数を増やしているそうです。

とはいえ、コウノトリが野生復帰するためにはまだまだ課題が山積みだということも知りました。

こうして保護活動に携わる人の言葉は、本や図鑑だけでは得られない熱意が伝わってきます。

絶滅させることも、保護していくことも人間の手にかかっていると思うと、私たちの一つ一つの選択が未来を左右するのだとあらためて感じました。



コウノトリボランティアの会 金野会長の説明



雨が上がり野外観察へ



ヤマトが帰ってきました



ひなたも・・・真上通過じゃ！



チュウサギです



アオサギも営巢中



お馴染みのオオヨシキリ

と、学びで頭をフル回転させたあとは、雨もやんでお待ちかねの野鳥観察タイム。  
 田んぼを歩いていると、白い大きなサギが見えました。  
 「ダイサギ！」ではなく、実はチュウサギだったそうです。とても似てますが、違いはこうです。  
 ・目の後ろまで口角が伸びている→ダイサギ  
 ・目の下で口角が止まっている→チュウサギ  
 う～ん…よく見るのが大事ですね。これが観察の醍醐味です！

近くの鉄塔ではアオサギたちの集団営巢が見られ、それはまるで高級マンションでした。ヒナも大きく育っていて元気そうです。  
 そんな中、お出かけ中だったコウノトリの「ヤマト」くんと「ひなた」ちゃんが私たちの真上を飛んでゆきました。その迫力に一同大興奮でした。どうして名前が分かるのかというと、足環が付けられ、色によって個体の識別ができるようになっているからです。  
 他の野鳥では味わえない、おもしろいポイントですね！  
 (最近の個体は経費削減のため番号だけ書いてあるそうなので識別は難しそうですが…)

鳥合わせは、いつもより数は少ないものの、とても内容の濃い観察会でした。  
 楽しい観察と同時に、こうして知識が蓄積されていくこともまた、貴重な体験だと思います。  
 自然と向き合うひとときを大切にしたいですね。

<参加者の皆さんから>

- 楽しい観察会でした。また機会があれば参加させていただきます。(宮園野鳥の池、坂川、富士川などよく行きます)。よろしくお願いします。(稲村行彦さん・HP をみて参加)



ヤマト見参



ひなたにファイティングポーズ



足環見えますか？

※ヤマト♂ (J0155 2017年4月9日 野田市生まれ 右足：黄黄 左足：黄黒)  
ひなた♀ (J0424 2022年3月29日 小山市生まれ 右足：青黄 左足：緑緑)

◆観察した鳥

カワウ、アオサギ、チュウサギ、コウノトリ、サシバ、カルガモ、  
コジュケイ、キジ、コチドリ、キジバト、ホトトギス、ツバメ、  
ハクセキレイ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、ホオジロ、  
カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス

以上 22 種

◆参加者

朝日真紀子、伊東 孝、川上和雄、菊池和子、後藤邦宏、鈴木淑子、  
鈴木瑞枝、相馬利雄、相馬由佳、近澤 宏、服部洋之、服部雅子、  
東原 聡、中澤誠至、増田久美子、宮原 誠、吉田令子、和田椋甫  
(WEB 会員 植松正浩、植松和子、稲村行彦)

以上 会員 18 + 3 = 21 人



内容の濃い観察会でした



## <特別寄稿>石垣島、西表島探鳥レポート



文・今泉好美 写真・今泉 毅

3月1日～4日にかけて観光と探鳥を目的に、石垣島と西表島へ行ってきました。石垣島は羽田空港より約3時間半のフライトにて行ける沖縄県の離島です。また、西表島は石垣島からフェリーにて40～50分で行くことができます。

石垣島は気候の違いから本州とは異なる種類・亜種の野鳥にたくさん出会うことができました。図鑑も本州とは違う野鳥が載った石垣島の野鳥の図鑑があり事前に購入し、家と飛行機の中で読みながら会えるのにワクワクしながら向かいました。

今回石垣島へ初めて行くので、現地の方のツアーに参加して探鳥しました。ツアーは少人数制で合計4人の相乗りで車の中より探鳥します。石垣島の野鳥はとても警戒心が強い為、流山のように歩いて探鳥するのは難しく基本は車の中からの探鳥。一度、車の外にでて確認する機会がありましたがすぐに飛んでいってしまい警戒心の強さをあらためて認識しました。ガイドさんによると「鳥は命がけだからヒトの姿・視線を殺意と感じて警戒心が強い。しかし、車という概念がないからわからないので逃げない」とのことでした。



リュウキュウコノハズク



リュウキュウアオバズク

1日目夜の石垣島ではナイトツアーへ参加。車に乗りながらガイドさんが懐中電灯を木々へ当てながら探します。リュウキュウコノハズクやリュウキュウアオバズクがいました。リュウキュウコノハズクは1つの木にオスとメスが止まっており、コホー、コホーとお互いを呼び合っています。空を見上げると綺麗な星空。都内は街の灯りで夜空が明るいのに反し、ここでは全く街灯りが無いため空が暗く、ライトを消すと本当に暗闇。しかし星空はまだこんなものではないとガイドさん。石垣島は快晴率が低く星は6、7月がよいとのことでした。



カンムリワシ幼鳥

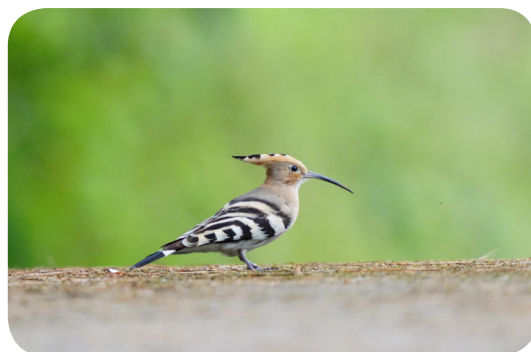


カンムリワシ

2日目は朝9時から探鳥スタートです。昨日と同じガイドさんの車に乗り込み1日かけて石垣島の南部を中心に、野鳥スポットを回りました。まずは石垣島といえばカンムリワシ。電柱や木の枝、田んぼなど様々なところで見かけ、感動！！でした。電柱にとまり、田んぼの蛙などの獲物をじっと待っています。そして空からキャッチするのではなく、一度地上に降りて歩いて獲物のところまで行くようです。よく失敗もするようで地元の方からはかっこいいというより可愛いと印象が強いとのこと。個体数が減少しており生息している石垣島、西表島合わせても200羽程度しかいません。国の特別天然記念物に指定されている絶滅危惧種です。個体数の減少の要因として交通事故やインドクジャク増加が挙げられます。インドクジャクは1970年代にリゾートホテルによって石垣島へ持ち込まれ個体数は増加しています。カンムリワシとエサが同じためこのクジャクの増加によりカンムリワシの個体数は減少しているようです。観察した公園もクジャクの綺麗さから公園の売りにしていると聞きました。1日目に立ち寄ったジェラート屋さんの店主の方から昔はよくカンムリワシを見たが最近は全く見なくなると、ガイドさんもこのままではカンムリワシは絶滅してしまうと心配していました。ツアー中も幼鳥の生存をガイドさんは確認していました。



シロハラクイナ



ヤツガシラ

次は同じく留鳥のシロハラクイナです。営巣の準備をしておりせと忙しそうに巣材集めをしていました。警戒心も強く素早い動きのためカメラに収めるのも大変。西表島ではよく道路に飛び出してくる光景が見られました。西表島では野生動物との交通事故を減らすため車の制限速度は40キロ以下に規制されておりあちこちに標識がありました。

また留鳥ではないのですが、ヤツガシラを見ることができました。あまり見られない野鳥と思っていたのですが、3月に石垣島に渡ってくるそうです。土の中に長い嘴をつついて中にいる虫を食べていました。歩く姿は足が短くチョコチョコと歩いていて可愛かったです。出会いに感動しているとガイドさんから、「ヤツガシラ見たことない人まだいるんだなー」って、石垣島ではヤツガシラは毎年来るからかあまり珍しくないのかなという印象でした。

ここでお昼休憩をとることになりお店探し。なんと！！！！日曜日は石垣島の飲食店は休みのお店が多いとのことで・・・コンビニ食となりました(悲)(ファ○リーマートオリジナル沖縄限定のおにぎりやホットフードのサーターアンダギーなどがあったので特別感がありました)。(別日に名物八重山そばをいただきました(嬉))



ムラサキサギ



ズグロミゾゴイ

田んぼではムラサキサギ、タカブシギなどのシギチ、オオノスリを見ました。オオノスリは羽を広げて空を旋回しており存在感がすごかったです。また下からみる羽の模様がとても綺麗でした。車を走らせていると、ガイドさんがなにかに気がついて戻ります。ズグロミゾゴイです。民家の隣の道をゆっくりと歩いていました。民家の庭でもよく見ることがあるそうです。



カタグロトビ



シマアカモズ

時間が少し余り私が図鑑でみたカタグロトビが見たいと言うと、スポットまで連れて行ってもらいました。警戒心がとてもとても強いとガイドさん。カメラでかろうじて識別できる距離でそれ以上近づくと他の木に逃げていってしまいます。赤い目に白色のトビ、木々の中に佇んでおりかっこよかったです。そんな形で17時まで…朝から夕方まで贅沢な時間を過ごすことができました。

3, 4日目は西表島に渡りました。西表島は島の約90%がジャングルに覆われた自然の宝庫です。西表島のナイトツアーはコノハズクやアオバズクの他にコウモリやカタツムリを食べる珍しいヘビ、サソリを見たりとまさにジャングルツアーでした。長靴を履いてあたりを散策したのですが、足元近くにはサキシマハブというヘビが何匹も並んでとぐろを巻いて威嚇しており、なかなか恐ろしい体験もしました。



セマルハコガメ



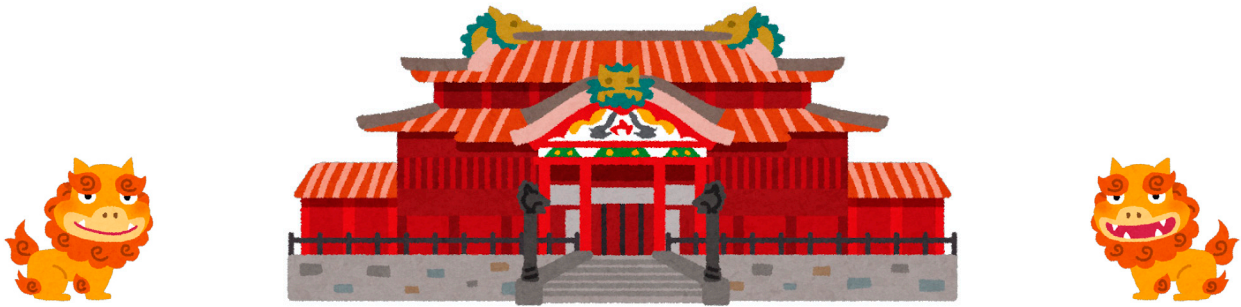
チュウダイズアカアオバト

西表島でもカンムリワシがよく電線に止まっていたり、田んぼに降りていたりもして石垣島よりも多くの個体がいるように感じました。シロハラクイナは道路を横切って行ったり来たり。そして車を運転していると・・・突如カメが道路上を横断！？セマルハコガメという道路を横断する亀がいるとは事前に情報としては聞いていましたが本当に現れるとは・・・ゆっくりとマイペースに道路を横断、反対車線からも車がやってきて、一度停止。ここでは動物が優先。ほっこりとした気持ちになりました。また、最終日は雨が降ったおかげで幸いにも電線に止まるチュウダイズアカアオバトを多く見ることができました。初日にガイドさんに「アオバトが見たい」と話したところ雨が降らないと難しいと言われまさにガイドさんの言う通りで雨が降ってむしろラッキーという体験ができました。

西表島は生き物や自然を守るため様々な活動をしています。いつまでもこの自然の光景が続くといいなと思うのと、全国にもこのような活動が広まることを願います。観察会でお馴染みの野鳥たちも石垣島、

西表島では少し様子が違いました。ヒヨドリやキジバトは少し暗めの色をしており、カラスはオサハシブトガラスという一回り小さいカラスがいました。これは温かく湿度の高い地域に住んでいる生き物は、他の地域の個体よりも暗い色をしている傾向があるというグロージャーの法則というものがあるようです。また、西表島には雀がないとのこと、びっくりでした。

4日間で30種以上の野鳥に出会うことができ、また色々な発見が多く楽しい探鳥と環境について考えさせられる旅となりました。時期が違えばまた違う野鳥も来るようです。また沖縄本島や他の離島でも会える野鳥が違うようでもた訪れたいと思います。



## ◆鳥だより——フィールドノート拝見

2025年4月から6月の市内各地の鳥だよりです。冬鳥が去り、夏鳥が入ってくる季節。報告はちょっと少なめですが、HPのフィールドノートもご覧ください。

### 新川耕地、江戸川地区

- 4月 4日 …サシバ、チョウゲンボウ
- 4月 5日 …サシバ
- 4月 6日 …オオタカ、タヒバリ
- 4月 12日 …サシバ  
コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、タシギ、カルガモ、キジ、ウグイス
- 4月 16日 …コチドリ
- 4月 21日 …セッカ
- 4月 22日 …サシバ、セッカ
- 4月 29日 …セッカ
- 5月 1日 …サシバ、キジ、オオヨシキリ、セッカ
- 5月 3日 …セッカ、オオヨシキリ
- 5月 13日 …セッカ、オオヨシキリ

森岩好明  
森岩好明  
若林幹夫  
森岩好明  
若林幹夫  
森岩好明  
森岩好明  
森岩好明  
森岩好明  
森岩好明  
森岩好明  
森岩好明

### 市野谷・おおたかの森地区

- 3月 27日 …オオジュリン
- 4月 19日 …センダイムシクイ
- 4月 22日 …エゾムシクイ
- 4月 24日 …キビタキ
- 5月 12日 …チョウゲンボウ
- 5月 22日 …オオバン
- 6月 1日 …ホトトギス

菅野文夫  
菅野文夫  
菅野文夫  
菅野文夫  
和田椋甫  
今泉好美  
菅野文夫

### 江戸川南流山地区

6月 2日 …チョウゲンボウ  
6月 4日 …チョウゲンボウ  
6月 5日 …チョウゲンボウ

森岩好明  
森岩好明  
森岩好明

### 大堀川上流地区

3月 24日 …ジュウカラ、アオサギ、コサギ

服部雅子

### 江戸川台地区

4月 9日 …ツミ、オナガ  
5月 15日 …ツミ、オナガ  
ツミ、オナガ、キジバト、ムクドリ  
5月 21日 …ツミ、オナガ  
6月 16日 …ツミ、オナガ

鈴木淑子  
森岩好明  
鈴木淑子  
森岩好明  
森岩好明

### 上新宿・北小屋地区

4月 11日 …アカハラ（囀り）  
4月 13日 …サシバ（声）  
5月 3日 …ノスリ

若林幹夫  
若林幹夫  
若林幹夫

### 平方地区

5月 2日 …キビタキ

若林幹夫

## ★「鳥だより」をお寄せください。

【通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。

【連絡先】若林幹夫 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49

e-mail: mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp

次号の「鳥だより」は9月20日までをお願いします。

### 会報『流山とりだより』充実にむけて——会員部からお願い

幹事が中心に執筆してきた会報『流山とりだより』ですが、より多くの会員の方にご寄稿・ご投稿いただき、“みんなで作る会報”にしていきたいと思っております。みなさんのご寄稿・ご投稿をお待ちしています。

#### ◆観察会から……観察会ごとに原則お一人（ご家族などでの執筆もOK）

定例観察会や会員限定観察会のレポートです。「長い文章はちょっと……」という方は、次の事柄のみでもOKです。その他の基本情報や補足情報は幹事が適宜書き加えて仕上げます。

- ・その回の観察会で楽しみにしていたことは？
- ・観察した鳥で印象に残っているのは何？ その鳥のどんなところが印象に残った？
- ・観察会に参加した感想や思ったことは？（楽しかった、暑かった、こんな場所があるなんて知らなかった、コースが短いor長い、次はどんな場所でどんな鳥が見てみたい、……等々、何でもOK）

上記以外でも観察会に直接・間接にかかわることなら自由にお書きください。長い文章の報告レポートも、もちろん大歓迎です。

#### ◆鳥だより——フィールドノート拝見

日々の鳥の観察記録です。観察した月日、場所、鳥の種類、観察した方のお名前をお寄せください。同好会ホームページの「鳥だより（フィールドノート）」に投稿いただいても、若林宛にメールでお送りいただいてもOKです。会報発行の前月（3月、6月、8月、12月）の20日頃までのものをまとめて掲載します。

#### ◆探鳥レポート、フィールドの紹介、図鑑や図書の紹介、鳥についての思い出、等々こうした文章もお待ちしています。

若林幹夫: mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49

ホームページと会報の連携も今後考えていきます。よろしくお願いたします。

## ◆ 今後の行事予定

### ● 会員限定 三番瀬海浜公園観察会 (web 会員は参加できません)

9月21日(第3日曜日) 担当:相馬 応援:落合  
場所:船橋三番瀬海浜公園 273-0016 千葉県船橋市潮見町40番 047-435-0828  
集合:船橋三番瀬海浜公園 観察デッキ1階 9時30分 雨天中止  
解散:13時ころ (海浜公園発バス時刻 12:40/13:40/14:40)  
持物:弁当持参 ※市外観察会につき会員参加費200円です  
交通:①武蔵野線南流山駅(南船橋行き2番線)8:01発~西船橋駅8:19着  
総武線西船橋駅(津田沼行き)8:27発~船橋駅8:30着  
②東武線柏駅(船橋行き)8:12発~東武線船橋駅8:43着  
<以下共通>  
徒歩で京成船橋駅南口前3番バス停へ  
船橋海浜公園行きバス9:00発~終点下車9:25着(330円)  
※ダイゼン、ミユビシギ、ミヤコドリなどシギ・チドリを観察しましょう。

### ● 10月(第307回) 定例観察会

日時:10月19日(第3日曜日) 担当:相馬  
場所:利根運河・西深井 または理窓公園②  
集合:運河駅 改札口を出て左側「運河ギャラリー」 9時 雨天中止  
解散:12時ころ  
持物:弁当は無しです  
※そろそろ冬鳥が来てる頃です。

### ● 11月(第308回) 定例観察会

日時:11月16日(第3日曜日) 担当:若林  
場所:再挑戦!新川耕地(ケリを見よう)  
集合:流山市 北2号公園 9時 雨天中止  
解散:12時ころ  
持物:弁当は無しです  
※なんとしてもケリが見たいのです。

### ● 12月(第309回) 定例観察会

日時:12月21日(第3日曜日) 担当:若林  
場所:野々下水辺公園、古間木の池  
集合:豊四季駅 南口階段下 9時 雨天中止  
解散:12時ころ  
持物:弁当は無しです  
※やっぱり、カモでしょ!

◆ 観察会は、各1カ月前にホームページにて告知いたします。  
ご確認のうえご参加ください。

### ◆ 新入会員の紹介

鈴木瑞枝さん、千葉留美さん、朝日真紀子さん、井上ハルヨさん、よろしくお願ひします。

◆ チェックリストを同封いたします。

### ◆ 令和7年6月30日現在の会員数

単体会員45名+家族会員21名=合計66名

---

流山野鳥同好会会報 No. 152 2025年7月10日発行(年4回発行1月・4月・7月・10月)

発行人 相馬 利雄

連絡先 〒270-0163 千葉県流山市南流山6-27-11

TEL・FAX:04-7159-0972

郵便為替口座 加入者名「流山野鳥同好会」 口座番号:00130-3-608241

---